

商店・オフィス・飲食店などから出る

事業系ごみの処理方法



事業系ごみ減量化の基本方針



資源には限りがあるとともに、資源の消費が地球環境問題の原因となります。ごみを減らし、リサイクルを推進することは、事業所を含めた市民一人一人が真剣に考えるべき重要な課題となっています。

安中市では平成21年3月に「一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。その基本目標に「資源循環型社会への転換」を定め、市民・事業者・行政が一体となって取り組むことを目標としています。また、ごみの排出量を基準年度の平成18年度から最終目標年度の平成35年までに15%削減する目標を掲げました。

この目標を達成するには事業者の方々の協力が大切であり、3R【リデュース（ごみの発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（ごみの再生利用）】の取り組みが重要であります。

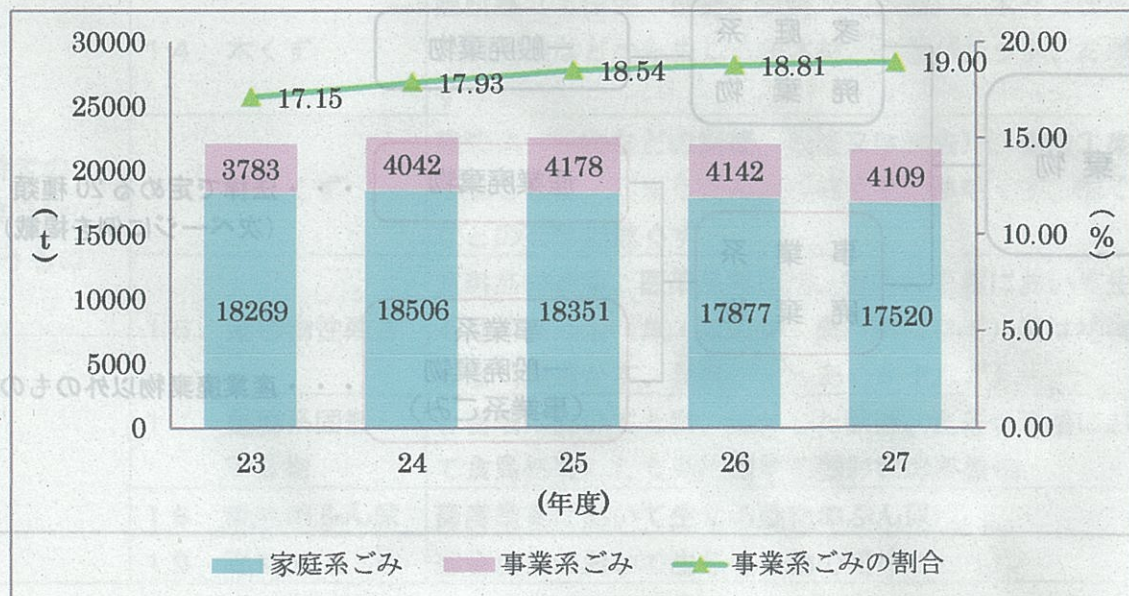
今後も市のごみ減量化にご協力をお願いいたします。

事業系ごみの排出量推移

安中市全域のごみ排出量は年々減少傾向にある中、碓氷川クリーンセンターに搬入される事業系ごみ量はほぼ横ばい状態にあり、割合で見ると増加傾向にあります。事業所から排出されるごみの中には、ほんの少し意識するだけでごみにならないものが多く含まれています。

あなたの事業所は、ごみ処理にどれくらいの費用がかかっていますか？碓氷川クリーンセンターでごみを処理する場合、10kgあたり105円の処理手数料の他、運搬費がかかります。

事業所から出るごみの量と費用を再チェックしてみましょう。ちょっとした心がけや工夫でごみも費用も減らすことができるはずです。



事業系ごみの減量化の方策

事業者は商品の供給者の立場だけでなく、その活動において物を大量に消費し廃棄することが必要となる場合もあることから、ごみの減量化・資源化に対する役割は非常に重要なものとなっています。

事業系ごみの減量のため、3 R (Reduce・Reuse・Recycle) を実行しましょう。

①Reduce（発生抑制） ごみになるものを減らしましょう

- ・印刷、コピーはできるだけ両面印刷をする
- ・使い捨ての容器や商品など、すぐにごみになるものは購入しない
- ・製品の生産工程において、発生するごみを減量化できるよう工夫する
- ・食品廃棄物の水切りの徹底、生ごみ処理機の活用によるごみの減量化に努める
- ・エコバック、マイ箸、マイボトルを使用する

②Reuse（再使用） くり返し使用しましょう

- ・いらなくなった紙の裏側を、メモ用紙などに利用する
- ・運搬用のダンボールは納入業者に引き取ってもらい、くり返し利用する
- ・事務所や店舗に設置している自動販売機の空き缶は、設置業者などに引き取ってもらう

③Recycle（再生利用） もう一度資源として利用しましょう

- ・資源として有効に利用できるよう、古紙や空き缶などきちんと分別する
- ・取り扱う製品（商品）が、ごみとして排出された場合を考慮する
- ・リサイクル型社会づくりのため、再生品等を積極的に利用する
- ・分別した「資源ごみ」の回収ルートを確認する



3 R の取り組みによってもなお不要となったものは、事業系廃棄物として適正に処理してください。

